

## リハビリテーション工学・支援技術系教育における英語の必要性

Need for English in Rehabilitation Engineering and Assistive Technology (REAT) Education

新潟医療福祉大学 名誉教授・大鍋寿一  
ピッツバーグ大学 客員教授・Hisaiichi Ohnabe

### 【背景】

日本は世界で最初の超高齢社会となっている。また、日本の総人口も 2010 年をピークに減少に転じ、これは高齢者の増加とともに労働人口が増加から減少へ、すなわち経済も労働人口増加の経済から減少の経済へ転換した。一方世界はグローバル時代を迎えている。その中で日本の国際競争力ランキングは 1990 年、1993 年世界 1 位であったが、現在は世界 24 位である。求められているのは、「グローバル人材」すなわち「国際競争力を持っている人材」であり、「国際社会で活躍できる人材」である。その中で専門職の英語を考える。

### 【方法】

REAT 関連学会等出席による。主な出席学会等は次の通り、

- ・国連・WHO 障害の世界レポート記念発表会(NY, 2010)。
- ・REAT 関連 7 学会フェスティバル(トロント, 2010)。
- ・27<sup>th</sup> International Technology and Persons with Disabilities (CSUN) Conference (米国サンチェゴ, 2011)。
- ・Harvard Medical School, 老人学講座で意見交換 (2011)。
- ・韓国リハ工協会 RESKO Conference (韓国, テグ大学, 2012)。
- ・タイとシンガポールによる iCREATe (International Congress of Rehabilitation Engineering and Assistive Technology, 韓国・ソウル, 2013)。

### 【結果】

日本人の海外留学生数は、2004年の8万3千人をピークに、2010年は5万8千人まで、3割も減少した。1995/96年に世界最多だった米国への留学生数も、2011年度は2万人でアジア主要5カ国・地域(中国・インド・韓国・台湾・日本)の中で1位中国の1割で、台湾よりも少なくなった。

日本の英語教育は、2012年度から小学校においても取り上げられ、2013年度からは高校においては、英語の授業をすべて英語で行われることになった。2014年度には、海外で活躍できる人材育成のため、「グローバル高」100校が指定される。

2012年6月に公表された内閣府国家戦略室の「グローバル人材育成戦略」<sup>1)</sup>によれば、今後18歳から20歳前半の同一年齢の約10%(約11万人)を毎年留学させる。政府はまた国立8大学で今後3年間で外国人教員を倍増させ、世界を意識できる環境に変え、学生の海外志向を促すとしている。これは英語を中心とした外国語に加え、課題を発見し解決する力をつけることもねらっている。

また、2015年度(16年入省)のキャリア官僚の採用試験で、TOEFLなど民間の英語試験を取り入れる。ゆくゆく昇進にあたっても取り入れられていく予定である。

アジア各国の医療観光受け入れ状況は、タイ:140万人(08年)、マレーシア:34万人(07年)、シンガポール:65万人(08年)、フィリピン:10万人(09年)、韓国:6万人(08年)である(新潟日報2010, 10, 18)。日本はこれからであり、医療福祉関連分野は大きな産業分野の一翼を担うと考えられる。

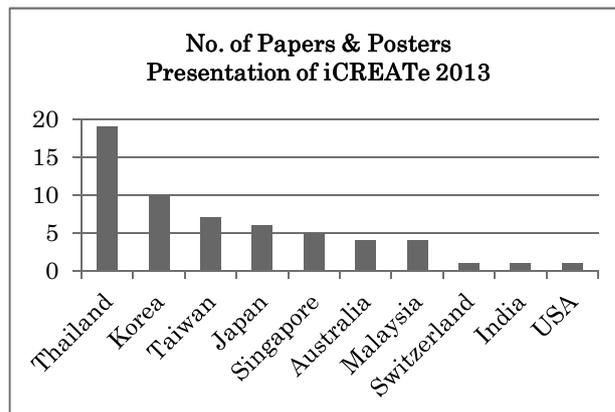


図1 国別 Paper/Poster presentation 件数

図1は、iCREATeのPaper/Poster presentation<sup>2)</sup>だけで、タイ(19件でトップ)、韓国(10件)、台湾(7件)、日本(6件)、シンガポール(5件)をはじめ10カ国から53件発表されている。iCREATeが主催国のタイ・シンガポール以外の外国(韓国)へ行って開催する等、アジア各国の元気が目立っている。日本はREATの技術レベルはアジアと云いつつ、その情報発信においては鎖国状態である。

今後の2030年<sup>3)</sup>、2050年までを考えた、グローバル人材育成には英語は必須である。学生は国家資格試験を目標としているため、高学年になるに従い、ともすれば資格試験に入っていない英語を軽視するよう見受けられる。学生の英語力を組織的に強化するには、国家資格試験に英語を入れることである。

### 【結論】

グローバル社会において医療福祉系専門職として活躍できる人材を育成すべく、国家資格試験に英語を入れるべきである。これにより海外留学制度や国際ボランティア活動も生きてくる。専門職として使用する英語(English for Professional Purpose)のレベルと導入時期の目標を提示することにより、学生に国際舞台で活躍出来る可能性と夢をあたえられる。これはなにもリハビリテーション工学・支援技術系だけでなく医療福祉系専門職全体の教育にいえることであり、産学官一体で取り組むべきと考える。

### 【文献】

- 1) 内閣府国家戦略室「グローバル人材育成戦略」,2013.
- 2) iCREATe2013: <http://www.icreateasia.org>.
- 3) 三浦 展, "データでわかる2030年の日本", 洋泉社.